

【必要性・目的、実施計画等】

本事業は、摂南大学の2022年度特別推進事業制度により採択した案件のうち、特に重点的に推進する整備事業について掲げる。

《必要性・目的》

①[寝屋川キャンパス]新校舎等建築工事業(学長室会計課)

2023年4月に現代社会学部(仮称)の開設を予定している。これに伴い新棟を建設し、教室、ラーニングcommons、教員研究室、ゼミ室等を設置する。また外構およびバスペイの整備を併せて行い、寝屋川キャンパスのシンボルとなるような建物とする。

②[寝屋川キャンパス]国際会館リフォーム事業(学生部学生課)

摂南大学国際会館は建設から20数年が経過し、随所に経年劣化による故障等が発生している。入居料は建設当時のままであり、近隣の民間マンションの家賃と比較して割高感が感じられ、設備も見劣りしていることから新規入居者の確保が難しくなっている。また、入居しても1年以内に退居するケースも発生している。これらを解消し、新規入居者の確保および入居者の満足度を高めるため全面的にリフォームを実施する。

③[寝屋川キャンパス]住環境デザイン学科・スタジオ教室改修工事業(理工学部)

住環境デザイン学科は2021年度入学定員増や定員超過により一学年の学生数が約20名増となった。これにより、2021年度入学生が3年生となり、専門性の高い演習系授業を履修する2023年度には12号館5階の住環境デザイン学科の演習系教室のキャパシティを大きく超え、学科を特色づけるワークショップやグループワーク、合同ゼミなどの授業を行うことが不可能になる。これを解消するため12号館6階を改修し、教育・研究環境の改善を行う。

④[枚方キャンパス]6号館3階研究室および共同利用機器室の用途変更並びに実務系教員居室・学生スペースへの改修工事業(薬学部)

薬学部における中長期計画の研究室・分野の統廃合および2022年度以降の教員採用計画にあたり、実務系教員を6号館3階に集約する予定であるが、講師以上の教員が使用する居室および学生スペースが不足している。これを解消するため6号館3階の「医療薬学研究室1・2」、「病理学研究室1〜4」および「共同利用機器室(組織解析室)」を改修し、教員居室と学生スペースに用途変更する。またこれに伴い、1号館3階「共同機器室」と「印刷室」を改修し、「共同利用機器室」に変更する。

《実施計画》

①[寝屋川キャンパス]新校舎等建築工事業(学長室会計課)

新棟は地上3階建とし、1階は500人を収容できるホール形式の大教室や学生が自由に利用できるラーニングcommonsを整備、2階は教室とゼミスペース、3階は教員研究室とゼミ・ラーニングcommonsを設置する。新棟の前にはバスペイを整備する。[一部は現代社会学部の設置経費に該当]

工事期間:2021年8月~2023年1月

②[寝屋川キャンパス]国際会館リフォーム事業(学生部学生課)

本事業は2018年度から年次進行で実施しているものである。2022年度は6室を実施する(学生居室全70室のうち68室完了)。床クッションフロア、壁クロス、巾木の全面張替え、網戸交換、照明器具のLED化、給湯器交換、風呂場・流し台の蛇口、シャワーヘッド交換、玄関ドア塗装、ハウスクリーニングを実施する。

工事期間:2022年5月~8月

③[寝屋川キャンパス]住環境デザイン学科・スタジオ教室改修工事業(理工学部)

12号館6階の「理工学部学事顧問室」、「坂本教授室」、「景観デザイン研究室」の3室を1室にして「スタジオ教室」に改修する。部屋内に1カ所可動間仕切壁を設け、少人数ゼミからワークショップなどのアクティブラーニング授業に対応できる教室とする。

工事期間:2022年4月~2023年3月

④[枚方キャンパス]6号館3階研究室および共同利用機器室の用途変更並びに実務系教員居室・学生スペースへの改修工事業(薬学部)

6号館3階に実務系教員の居室を集約するとともに学生スペースを設ける。6号館3階にあった共同利用機器室を1号館3階に移転する。

・実務系教員居室・学生スペース増設工事

工事期間:2022年9月~2023年3月

・共同利用機器室への改修工事

工事期間:2022年4月~6月

【具体的指標・効果(成果検証)】

①[寝屋川キャンパス]新校舎等建築工事業(学長室会計課)

入学定員増および改組ならびに新学部開設により、寝屋川キャンパスは学生数が大幅に増加する。現状でも教室数は余裕がない状態となっている。新学部設置に合わせて新棟を建設し、教室やゼミ・ラーニングcommonsを増加することにより、これらの問題を解消する。新棟は新学部用の建物ではなく、寝屋川キャンパスのシンボリックな建物と位置づける。500人を収容できるホール形式の教室では、講演会や学会が実施できる。1階の広いラーニングcommonsは、学生が誰でもいつでも自由に利用でき、グループワークから個人学習まで対応できる自主学習の場を設けるほか、2・3階にはゼミ・ラーニングcommonsが実施できるオープンスペースを多く取っており、空いている時間帯には学生が自由に利用可能とし、学内に様々な学びの場を提供する。また、新棟の前にはバスペイを整備する。この位置は教室が多く配置されている5・11号館にも近く、大学に到着するバスから降車する学生や教職員がスムーズに入構できることになる。

②[寝屋川キャンパス]国際会館リフォーム事業(学生部学生課)

全面リフォーム実施により、新規入居者の確保および継続入居者の増加に繋げる。

入居率はリフォーム前と比較して10%程度上がっている。年度途中での退居も減少している。また、入居中の学生からも設備面での不満がなくなった。

③[寝屋川キャンパス]住環境デザイン学科・スタジオ教室改修工事業(理工学部)

スタジオ教室設置に伴い、複数のグループが互いに学び合える環境となり、実践的かつ社会現場に近い教育・研究環境が向上するため学生たちの満足度が上がり、質の高い研究や作品が生み出される成果が期待できる。これにより、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを満たせるため、結果としてアドミッションポリシーを十分に満たす新入生の入学が期待でき、さらに教育的効果をあげる財産設備となり得る。

④[枚方キャンパス]6号館3階研究室および共同利用機器室の用途変更並びに実務系教員居室・学生スペースへの改修工事業(薬学部)

薬学部では2021年度からすべての研究室・分野を基礎系、教育系、実務系に分類し、各系の主たるミッションの明確化と強化を目的とする組織改革を行っている。実務系研究室は2022年4月1日付で臨床教育学域(仮称)を冠する予定であり、全実務系研究室が協働して病院・薬局実務実習やその前後教育で中心的役割を担う。現在、実務系研究室や教員居室は1号館および6号館に点在しており、教員間の連携が希薄になっている。実務教育を重視する2024年4月開始の新コア・カリキュラムに向けてハード(施設)、ソフト(教員)の両面を整備し、本学の実務教育体制の強化を図る。

No.2 事業計画名称: 摂南大学現代社会学部設置推進事業

[申請部署: 副学長、学長室(企画課、会計課)、入試部]

【必要性・目的、実施計画等】

≪必要性・目的≫

①現代社会学部開設事業(学長室企画課、会計課)

2015年に創立40周年を迎えた本学は、さらなる改革として創立50周年を見据えた成長戦略「SETSUDAI VISION 2025」を策定した。現在は、学園長期ビジョン達成の最終フェーズである第Ⅲ期中期目標・計画(2018年度～2022年度)に基づき、実現に向けて取り組んでいる。

ビジョン実現のための目標の1つ「多様な側面から課題解決に取り組む総合大学への進化」の達成、そして、本学のさらなる発展のためには、「建学の精神」「教育の理念」に基づき、現代社会の諸課題と正しく向き合い、よりよい社会の実現、複雑化する現代的諸課題の解決に向けた、人間力・実践力・統合力の養成が不可欠であることから、今般、摂南大学の新たな学部として「現代社会学部」を2023年度に設置する。

②新学部開設に係る学生募集広報事業(入試部入試課)

18歳人口の減少期にあるなか、政府の大学入試改革の導入、コロナ禍による受験生の安全志向や地元志向が高まり、一人あたりの受験校数に加え、1大学内での併願数も減少している。一方、入学定員を増やし、合格者増となった上位大学への合格可能性が高まるなど受験生の動向を左右する大学入試を取り巻く環境が年々変化している。

このことは2022年度公募制推薦入試の志願者数にも現れ、いわゆる「摂神追桃」と呼ばれるグループ層を境に上位大学は志願者数が増加し下位大学は志願者を減少している傾向がある。

このような状況下における現代社会学部の2023年度入試(2022年度)の学生募集活動において、安定的な志願者を獲得するためには、定期的に認知度アップを図るための広報強化が重要である。そこで、本事業にかかる学生募集の広報活動として、(1)志望者母数の裾野を広げる広報、(2)本学が求める学力レベルの受験者層獲得に向けた広報、に注力して実施し、対面広報と非対面広報の両面から連動した取り組みを行なっていく。学部の学びの特長や将来のキャリアイメージなどを中心に、受験生・保護者・高校教諭等学校関係者に広くアプローチしていく。

≪実施計画≫

①現代社会学部開設事業(学長室企画課、会計課)

- (1) 現代社会学部設置認可申請と認可(2022年3月申請→8月認可)。
- (2) FAL(フィールドワーク型アクティブラーニング)の体制など教育研究環境・運営体制の整備。
- (3) 現代社会学部開設記念シンポジウムの開催。

②新学部開設に係る学生募集広報事業(入試部入試課)

コロナが収束していない状況下にあっては、対面広報とともに非対面広報が重要な学生募集活動となる。興味・関心のある潜在的な受験者層や本学が求める学力レベルの受験者層に直接アプローチし、一定間隔で現代社会学部の「まなびの情報」を繰り返し届ける『リーフレットDM企画』を中心にターゲティング広報を展開する。さらに、WEBの特設サイトを充実させ、アピールポイントを訴求する。

【具体的指標・効果(成果検証)】

①現代社会学部開設事業の推進【2023年3月までに】(学長室企画課、会計課)

- (1) 文部科学省への現代社会学部設置認可申請について、2022年8月末の認可を得る。
- (2) 現代社会学部開設までに教育研究環境・運営体制を整える。(2023年3月末まで)
- (3) 現代社会学部開設記念シンポジウムを開催する(2022年10～11月開催予定)

②新学部開設に係る学生募集広報事業(入試部入試課)

「各種入試」「公募制推薦」「一般選抜」の入試を実施し、十分に定員確保できる受験者数を獲得する。